学位被授与者氏名	袁　銘沢（えん　めいたく）
論文題目	技能実習という選択 ――ベトナム人技能実習生の来日動機の重層性とその新たな理解に向けて――
論文審査結果の要旨	本修士論文においては対象としてとりあげたベトナム人技能実習生について、技能実習生に関するこれまでの先行研究とはことなる新たな視点から、日本での生活や社会とのつながりへの期待をも理解したうえで彼らを「生活者」として捉えようとした点が評価された。 従来の先行研究では、技能実習制度の構造的な問題およびそれによって生じる技能実習生が日本社会で直面する困難な状況を取り上げる社会的な問題として扱われてきた。こうした研究では技能実習生は往々にして制度の「犠牲者」あるいは「被害者」であること、それによって社会から包摂されることが困難な状況にある点などがたびたび指摘されてきた。また、ベトナム人技能実習生の来日動機についても、主として経済的動機に由来する点が強調されてきた。 本論では技能実習生制度を利用して来日する動機について、これまでの先行研究では十分に捉え切れていない来日動機について、協力者への参与観察とインタビューを通して把握しようとした。そこでは、経済的な動機に加え日本に対する文化的または社会的関心から来日を決意し、日本に滞在するための現実的な手段として技能実習制度が利用されている点を明らかにした。それによって、日本での就労を目的とするのみならず、生活体験や社会的交流を伴う「生活者」としてのベトナム人技能実習生の姿を明らかにした。 そしてベトナム人技能実習生の来日動機のこうした多面性について単に記述したのみならず、先行研究で提示された来日動機の類型についてワーキングホリデー研究などの理論モデルを導入することで、技能実習生に関する研究領域への新たな理論的枠組みを提供した点が評価された。 他方、審査において以下の点が指摘された。はじめに、ベトナム人技能実習生の来日動機について新たな理論的示唆を提供することに成功しているが、それが現状の構造的あるいや社会的な問題を抱えた技能実習制度そのもののあり方、そしてその制度の下に来日する外国人住民との共生社会の実現に対して具体的にどのような貢献が可能か、その点をより明らかにする必要があることが指摘された。つぎに、データに基づく既存の理論モデルの修正に対しては一定の評価を受けつつ、所与の目的とした来日動機を把握するための修正モデルの中に動機の類型化には必ずしも含むことのできない内容が見られるなど、論理的な理論構成についても今後の課題とされた。 2025 年 2 月 17 日に、北九州市立大学北方キャンパス 4 号館 205 教室におい て、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受 け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容である と判定した。